

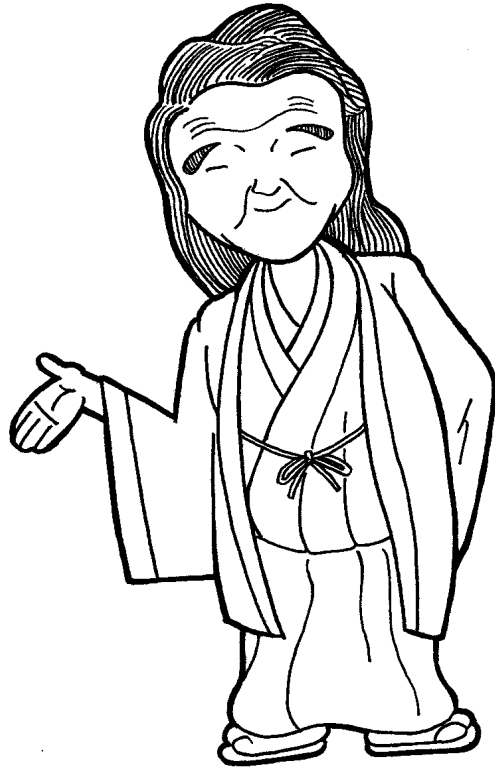
第六十一回

北村季吟顯彰記念俳句集

江戸時代の和学者・俳人

北村 季吟

北村 季吟 (イラスト)



北村季吟は、寛永元年（一六二四）に野洲郡北に生まれ、江戸時代の俳諧・和歌・古典研究に幅広く活躍した国文学者です。

三十歳の時、大和物語抄を刊行し、続いて徒然草文段抄、土佐日記抄、伊勢物語拾穂抄など古典注釈書を次々と出版しました。中でも源氏物語湖月抄は高く評価されています。

また、十六歳から学んだ和歌・俳諧では三十歳で宗匠にまでなり、芭蕉を筆頭に多くの俳人を育てました。

六十六歳で徳川幕府に召され、初代の歌学方となり、功多く七十六歳で法印に叙せられ満ち足りた晩年を江戸で過したのち、八十二歳でその生涯を閉じました。

以後歌学方は、北村家が世襲しました。

北村季吟顕彰記念俳句集

北田夏生 選

特 選

市長賞

空よりも山が眩しい五月来る

栗東市 林 寿美子

みどりがこんな多彩とは、と驚かされる新緑、若葉の季節。そんな山を空よりも眩しいと表現した作者の「五月来る」の措辞が抜群。

議長賞

逃水を前ゆく車に奪われし

野洲市 田中 耕声

春、高速道路などを走行すると数十メートル先に見える水溜り現象の”逃水”追っても追いつかぬ不思議さを、追い越して入って来た車に遮られてしまった。少し残念

教育長賞

家中の汗が集まる洗濯機

野洲市 田中 耕声

元気な家族の様子が目に見えます。カラリと晴れた日に洗濯機もフル回転。

準特選

五句

帰省子の好物多き夕餉膳

米原市 成宮 義雄

凍滝や未だ魔法は解けぬまま

野洲市 桜井 雅子

予報士の今朝は句を添ふ花便り

野洲市 小野 恵子

春愁や句帳ばかりを買ひ揃へ

彦根市 馬場 美也子

代田搔き村はうれしい水浸し

高島市 饗庭 恵美子

入 選 三十五句

氏神の気安き賑はひ初詣

野洲市 野崎 藤滋

手をつなぐ夕焼け空を口実に

野洲市 野崎 藤滋

舟遊び誰か居るらし雨女

野洲市 野崎 藤滋

木の実落つその静けさの中におり

栗東市 葛城 巖

揺り椅子に昼寝の夫の小さかり

草津市 石倉 政苑

病む夫に労はられぬる春の風邪

米原市 北村 富士子

サックスの低音が好き冬銀河

愛荘町 中村 慶子

愚痴一つ飲み込みたるや春の雷

栗東市 内西 喜美子

春愁や水の近江の水時計

大津市 宮崎 正子

雪晴れの眩しさにいて鶴を折る

栃木県鹿沼市 石川 夕ミ子

裸電球揺れて夜店に古書探す

野洲市 田中 耕声

藪入や牛舎は車庫と変りいて

コスモスに思惟のいつとき風止まる

餌に群れ光の渦となりし鱒

矢車の空へ大志の弾む音

春の泥サイン攻めなる女性騎手

身の丈に似合う生活の菜飯かな

居眠りに文字の逃げゆく朧月

許さるる猫もねずみも涅槃の囀

まだどんな花とも知れず鉢芽吹く

碧眼の肩触れ合うて神輿舁く

余呉の水弾き公魚釣られけり

比良比叡山暮るるまで耕せり

野洲市 田中 耕声

野洲市 田中 郁子

長浜市 廣瀬 悠紀子

彦根市 菅生 鈴子

栗東市 笹井 成子

甲賀市 澤 長寿

甲賀市 澤 長寿

彦根市 松本 いづみ

野洲市 宮田 絵衣子

湖南省 池谷 百々代

湖南省 池谷 百々代

野洲市 南井 栄治郎

雪柳重なり合ふて散り合ふて

水平に提げ来る包み桜餅

春愁に句点なかりし介護日々

蜻蛉に伊吹山頂あけ渡す

春暑し屈託の無きにきび面

花咲けどまだまだ悪人やめがたし

滝壺へ墜ちて力を抜きし水

子の膝に昆虫図鑑夏来る

冬景色とは突然に出来あがる

図書館は散歩の順路ぼけの花

かがり火に女鵜匠の白き咽

甘噛んで獅子舞稚を泣かせけり

日野町 白井 由紀子

三重県鈴鹿市 古川 和子

野洲市 堀尾 晴美

野洲市 三原 遊柳

高知県高知市 吉倉 紳一

愛荘町 西村 芳子

野洲市 宇佐美 英夫

野洲市 宇佐美 トヨミ

野洲市 宇佐美 英夫

草津市 林 和子

栗東市 嶋田 梅夕

野洲市 吉田 節夫

総評

昨年書かせて頂きましたが、テレビ番組の影響か、俳句を楽しみたいと思う方が増えてきているようで嬉しい事です。今回も佳句揃いで、選に迷いながらも楽しく拝見しました。

ただ、稍気になった事は、誤字がかなり見受けられた事、季語が少し理解出来ていないように感じられる句もあった事です。辞書と歳時記は、俳句を作る者には必携の書、投稿の際には、十分活用されるよう願います。

選者吟

兜の緒結び直して
武具飾る

野瀬章子 選

特 選

市長賞

鮎鮓をもつて近江の法事かな

野洲市 吉田 節夫

近江の名産の一つ鮎鮓はとても美味。昔は各家で漬けたもの、現在は、鮎の減ったこと
そして手間がかかり高価な品物、好感をもつ一句

議長賞

冬草の生きる力の青さかな

彦根市 馬場 美也子

冬もなお青々としている。それは何であろうか、作者はそれは生きる力の青さであると言っている。たしかに人間も同じである。

教育長賞

顔にまで泥つけ児等の田植かな

福井県三方上中郡

内藤 美子

田園に入った子供達は生き生きとしている。田植機と違って手植は大変である。でも、顔じゅう泥だらけの姿が目には浮かぶ。

準特選

五句

別れ霜湖水輝くばかりなり

栃木県鹿沼市

石川 夕ミ子

湯たんぽに授かる深き眠りかな

京都市

なかじま あゆむ

星月夜琵琶湖音なく眠りをり

野洲市

桶井 良月

沖島は人棲む灯り春遅遅と

野洲市

田中 耕声

路地住みの鉢を殖やして菊根分

彦根市

菅生 鈴子

入 選 三十五句

花誘ふ京へ疏水の舟下り

野洲市 野崎 藤滋

犬ふぐり色なき野辺に輝けり

甲賀市 東 美智代

かあきんと呼ばぬ日はなしカーネシヨン

甲賀市 北川 溪舟

香水をつけて一人を楽しめる

野洲市 森山 直佳子

早梅を愛でつ北野に絵馬を掛く

野洲市 吉田 節夫

落ちるもの落とし尽して冬木立

野洲市 石本 美儀

古文書を繙く一日いわし雲

野洲市 桜井 雅子

拜謁に威儀を正して菊薫る

野洲市 福井 弘一

ピアノひく子の夢遙か風光る

長浜市 小川 てる

色足すも消すも日差しの冬桜

彦根市 佐古 徳子

暮れがての寺振り返る遍路笠

東京都多摩市 飯田 すみえ

蜆汁朝餉の膳に湖の香を

藪入りや牛舎は車庫と変りいて

小女子や瀬戸のふる里懐かしむ

種浸す父の残せし農日記

空よりも山が眩しい五月来る

子の帰り日数かぞへて蒲団干す

露のたう苦みの中の風味かな

もの言ひのやさしい人や余花の雨

花冷えの雨に滲んだ街灯り

一村の空を映して田植終ふ

余呉の水弾き公魚釣られけり

親の背をしみじみ流す菖蒲の湯

野洲市 井口 久枝

野洲市 田中 耕声

野洲市 田中 郁子

大津市 兵庫 妙

栗東市 林 寿美子

野洲市 米野 達彦

橋本 弘子

野洲市 宮田 絵衣子

野洲市 濱崎 静子

湖南市 池谷 百々代

湖南市 池谷 百々代

野洲市 米野 達彦

比良比叡山暮るるまで耕せり

野洲市 南井 栄治郎

赤トンボ追いつ抜かれつ下校の子

野洲市 福井 弘一

差し向ひ思いあれこれ春炬燵

野洲市 福井 弘一

コスモスの見渡す限り風となり

草津市 平川 仙女

帰省して校歌の山河たづねけり

三重県鈴鹿市 古川 和子

湖の果て船で訪ねる遅桜

京都市 大黒 ひさゑ

おぼろ夜の落款天地違えけり

甲賀市 福井 恵希乃

剣玉に興ずる声やこどもの日

野洲市 竹村 とく子

一言の重さ引き摺る長き夜

彦根市 寺村 澄子

星飛んで祈る心が生まれ出る

野洲市 宇佐美 英夫

髪洗い女らしさをまだ捨てず

野洲市 宇佐美 トヨミ

競うごと大空目ざし緑立つ

野洲市 石川 宏二

総

評

北村季吟先生を敬慕の心に沢山の方よりご応募があり、又その選をさせて頂くと云ふこの上ない喜びに感じております。人生は長い様で短い、ご応募のお句を拝見して喜びもあり、哀しみもあり人の織りなす人間模様を巧みに作っておられるのに感心しました。すべて俳句によつて癒され明日に向ふ力が湧いて来ます。

佳句ばかりで選に迷いました。そして苦しみました。数に限りがあることで、お許し下さい。

最後に誤字脱字が目につき、ご投句の際には今一度辞書などでお調べの上、ご投句されることを願います。

選者吟

イヤリング重たさうなる春の風

藤野鶴山 選

特 選

市長賞

障害を背負うリユックに風光る

米原市 藤居 節子

「障害を背負うリユック」とは障害を持つ人達に助力をする人々のリユックとも又、障害のある方々ご本人達のリユックとも取れるが、ここではご本人達のリユックと見よう。ハンディキャップのある身乍らリユックを背負い懸命に努力する方々の背に五月の風がキラキラと輝いていた。

議長賞

矢車の空へ大志の弾む音

彦根市 菅生 鈴子

青空にカラカラと廻る矢車の音は大志を持つ少年少女等の希望の音なのであるうか、五月の空に軽ろやかに爽やかに拍手を送るかのごとくひびいていた。

教育長賞

銅鐸にはるか弥生の祭かな

野洲市 石川 宏二

当地野洲には近隣の山々から出土した二十四個の銅鐸を中心に弥生時代の遺物を展示した「野洲市歴史民俗博物館」があり、有名となっている。ここでは、弥生時代の農耕まつりの音が聞こえてくるようであった。

準特選

五句

落ちるもの落とし尽して冬木立

野洲市 石本 美儀

サツクスの低音が好き冬銀河

愛荘町 中村 慶子

コスモスに思惟のいつとき風止まる

野洲市 田中 郁子

薰風や近江盆地と言ふ広さ

湖南省 池谷 百々代

水馬の踏ん張る力浮く力

湖南省 池谷 百々代

入 選 三十五句

梅花藻にふれて乙女の指白し

バス停の椅子のまちまち花吹雪

豊作を祈りてカグラ春を舞ふ

観音のおはす湖北の菊日和

木の実落つその静けさの中におり

朽舟をくぐりて鳩の見えかくれ

戦なき瑞穂の国の田植歌

過ぐ労苦無垢に晒して敬老日

風青く水また青し初夏の湖

春愁や水の近江の水時計

震災の祈りの海や舟おぼろ

野洲市 野崎 藤滋

大津市 西山 敦

長浜市 北村 としえ

長浜市 北村 としえ

栗東市 葛城 巖

米原市 北村 富士子

甲賀市 北川 溪舟

野洲市 吉田 節夫

内藤 美子

大津市 宮崎 正子

飯田 すみえ

福井県三方上中郡

東京都多摩市

麦秋や裳裾広げて近江富士

彦根市 前川 管子

裸電球揺れて夜店に古書探す

野洲市 田中 耕声

雲のあらぬ空より風花舞う不思議

野洲市 田中 耕声

湯の街の更けて春の灯なまめかす

野洲市 田中 耕声

秋深し三井の夕鐘音景色

野洲市 田中 耕声

犬曳きてやがて引かるる夏野かな

長浜市 廣瀬 悠紀子

季吟忌はやはり生き甲斐句を修す

長浜市 雨森 多鶴

一艇の波にたゆたふ鴨の陣

高島市 貫野 浩

櫓田に一本足の忘れ物

野洲市 深田 清志

線量の消えぬ不安や春の泥

野洲市 深田 清志

代田搔き村はうれしい水浸し

高島市 饗庭 惠美子

蜻蛉に伊吹山頂あけ渡す

野洲市 三原 遊椰

年の瀬の夢三枚の宝くじ

万緑や雄山雌山の近江富士

木守柿まばゆき空となりにけり

鳶の輪の中二十戸の村長閑

花吹雪風のかたちにごりぬ

奥琵琶の湖岸ふちどる花の帯

茶碗酒呑んでまた吹く祭笛

ウィーンフィルに満たさる年の始めかな

新蕎麦や木曾馬低く草を食む

花の散るその一片を惜しみけり

野洲川の蛇行の光水温む

万緑を搔き鳴らしたる天つ風

野洲市 竹村 とく子

野洲市 木村 郁夫

福井県三方上中郡 森 幸子

甲賀市 田中 みつを

大津市 一尾 久子

愛荘町 北邑 史子

野洲市 宇佐美 英夫

野洲市 奥野 道子

野洲市 小野 恵子

日野町 皆川 規子

野洲市 石川 宏二

新潟県加茂市 織田 亮太郎

総

評

北村季吟顕彰記念俳句大会は、去年六十周年と云う節目の年を迎え、本年また不連続の連続と云う六十一回目を迎えることとなりました。

野洲市の支援と地元住民の努力が相俟って年々歳々と充実してまいります事は参加投句される皆さんの句の広がりと共にまことに喜ばしい事と感謝致して居ります。

今後の益々のご発展を祈念しつつ私の総評と致します。

選者吟

弧を描く白き航跡夏始まる

古川浄雪
選

特選

市長賞

風音に水音に聞く秋の声

福井県三方上中郡

内藤 美子

春の「山笑う」、冬の「山眠る」、そして「秋の声」。この声は無声の声として幽玄な意味をもたせるといふ。これが「風音に水音に」、あるといふ。秋のもの淋しい声が聞こえる。

議長賞

はじめての紅をさす娘や山笑う

近江八幡市 福井 由隆

この句は春の句であり、「山笑う」という。これは春の山の華やかさの形容であるが、「はじめての紅をさす娘」。学業を終へていよいよ社会へ進出の門出なのであろう。ご一同のよろこびの姿が見えてくる。

教育長賞

ででむしの戻れぬ道を光らせて

栗東市 林 寿美子

この句を拝見して人生の一日一日を感じさせられました。人も後もどり出来ない宿命を背負って懸命に日々を積み重ねております。すばらしい死に方のため、すばらしい生き方をしたいものであります。

準特選

五句

春近し乳の匂う子よく笑う

野洲市 田中 耕声

夏休み孫は来てよし去りてよし

野洲市 田中 耕声

揚雲雀天にゴールのあるごとく

湖南省 池谷 百々代

ちぐはぐの言葉に優し春の風

福井県三方上中郡

森 幸子

陽を集め風を集めて吊し柿

草津市 山本 絹代

入 選 三十五句

梅花藻にふれて乙女の指白し

野洲市 野崎 藤滋

ゴミ出しのパパの挨拶爽やかに

野洲市 野崎 藤滋

バス停の椅子のまちまち花吹雪

大津市 西山 敦

風船をふくらませる児の真顔

米原市 成宮 義雄

魷杭につかず離れず残り鴨

米原市 北村 富士子

ひと息を七色に吹くシャボン玉

甲賀市 北川 溪舟

風光る少年今日から登校す

大津市 吉永 幸司

顔にまで泥つけ児等の田植かな

福井県三方上中郡 内藤 美子

カタカナの多き街並み蝉時雨

野洲市 桜井 雅子

防大生声弾ませて卒業す

野洲市 福井 弘一

周航の歌百年の春の湖

彦根市 佐古 徳子

近江路を吹く松籟や義仲忌

山莊の誘いの文は熊の鍋

懐かしき母の味してよもぎ餅

秋澄めり遙かに望む伊吹山

陽と水に恵まる土を耕せり

人知れず咲いてこぼれて柿の花

青芦や水郷巡る船頭唄

空と海隔つもの無く鳥帰る

母の日も母は黙って残り物

露のたう苦みの中の風味かな

水馬の踏ん張る力浮く力

白煙を吐ひて納屋出づ耕耘機

栃木県鹿沼市

石川 夕ミ子

野洲市 井口 久枝

京都市 なかじま あゆむ

野洲市 桶井 良月

野洲市 田中 耕声

野洲市 田中 耕声

大津市 兵庫 妙

甲賀市 澤 長寿

野洲市 米野 達彦

福井県三方上中郡 橋本 弘子

湖南省 池谷 百々代

野洲市 吉田 節夫

啓蟄や指の形の道しるべ

木漏れ日や名水園に風光る

木の枝に嘴拭く鳥や地虫出づ

息深く吸うて遅日のレントゲン

風に乗り風をのりかへ夏の蝶

梅万本咲いて明るき湖の色

時計屋の時報まちまち万愚節

大雪に万象無垢となりけり

老いし夫居るだけで足る夕端居

野洲川の蛇行の光水温む

どの枝も直立不動松の芯

花筏長蛇の列を作りけり

三重県鈴鹿市

古川 和子

福井県三方上中郡

田中 喜良

野洲市 梅影 信吾

甲賀市 福井 恵希乃

野洲市 三原 遊椰

福井県三方上中郡

原 稔

甲賀市 田中 みつを

野洲市 宇佐美 英夫

野洲市 宇佐美 トヨミ

野洲市 石川 宏二

野洲市 石川 宏二

野洲市 石川 宏二

総 評

今年は二回目の選であります。流石季吟翁の遺徳顕彰とあつてか、千三百余句という応募句に少々おどろいたことでもあります。

最初のチェックが百十四句。二選で四十八句。三選が四十一句。後二句を少々迷いました。だが、最終四十三句という厳選であり、この中から特選・準特選（計八句）の選でした。

総評といえは描写の中にも心象の感じられる句に心をひかれた思いです。しかし「季語」のないものも見られ残念にも思いました。

選者吟

まばゆくも汗の少女のうひうひし

俳句選者（五十音順）

北田夏生

野瀬章子

藤野鶴山

古川浄雪

（敬称省略）

第六十一回

北村季吟顕彰記念俳句集

総投句数 千三百十句（二百六十三組）
投句者数 百四十五人

平成二十八年六月十一日発行

発行者 北村季吟顕彰会

発行所

滋賀県野洲市小篠原二一〇〇一（〒五二〇一二三九五）
野洲市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課内

北村季吟顕彰会事務局

TEL 〇七七・五八七・六〇五三

FAX 〇七七・五八七・三八三五

主催 北村季吟顕彰会

共催 野洲市・野洲市教育委員会・野洲市北自治会

主管 野洲市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課

協力 北俳句同好会・北遊遊俱樂部

北ワイワイレディース

（順不同）

希望



市章:デザインの趣旨

野洲市の「や」をモチーフに、躍動感溢れるイキイキとした『人』と、ときめきを象徴とした『ハート』を表現しました。
また、環を表現した2つのラインは、緑が豊かな自然、古典的な色が歴史を意味します。
それらは互いに交差し、関わり合い、彩られながら、人(ハート)をときめかせています。

人権を大切にできる野洲のまち（野洲市人権尊重をめざす人権作品より）

～野洲からはじめよう！ストップ温暖化～